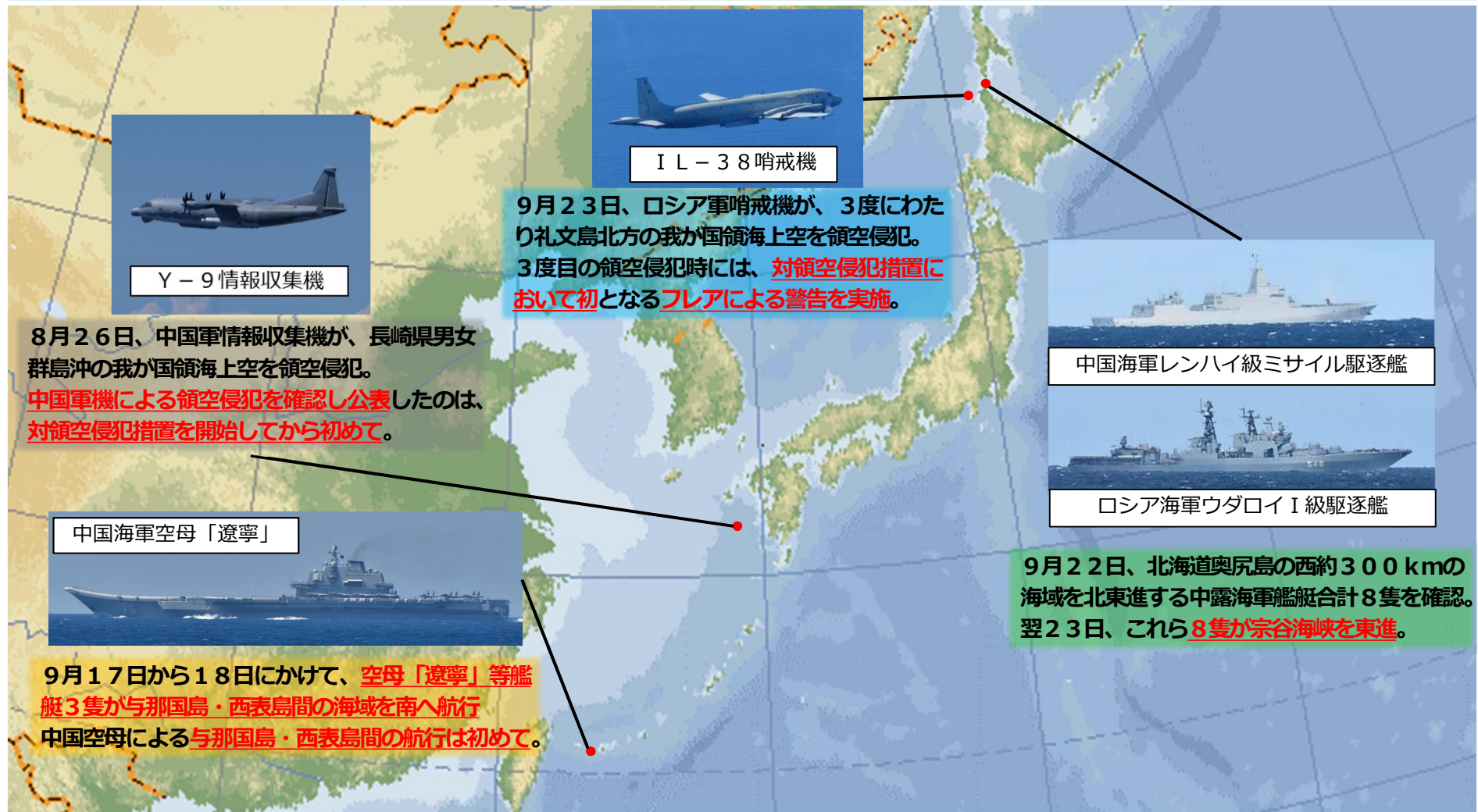


我が国周辺の最近の軍事動向等

2024年10月18日
防 衛 省

直近の中国・ロシアによる我が国周辺における行動

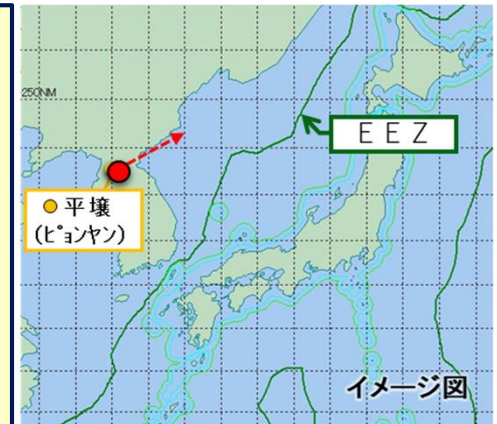
- 本年8月から9月にかけて、中露両国による領空侵犯等が立て続けに生起。
- 9月17日から18日にかけて、初めて中国空母による与那国島・西表島間の航行を確認。
- 9月23日には、中露両国艦艇計8隻が宗谷海峡を航行。また、ロシア軍の哨戒機が、3度にわたり、北海道礼文島北方の我が国領海上空を領空侵犯



9月12日の北朝鮮による弾道ミサイル発射について

発射概要

- 北朝鮮は9月12日7時10分から14分頃にかけて、北朝鮮西岸付近から、**複数発の弾道ミサイル**を、北東方向に向けて発射。詳細については現在日米韓で緊密に連携して分析中であるが、落下したのはいずれも朝鮮半島東の日本海であり、我が国の**排他的経済水域(EEZ)外**であると推定。発射された弾道ミサイルのうち**少なくとも2発**は、**最高高度約100km程度**で、**約350kmを超えて飛翔**したものと推定。
- 引き続き日米韓で緊密に連携して分析中であるが、これまでに得られた情報を総合的に勘案すると、発射されたミサイルは、**2024年3月18日、4月22日及び5月30日に発射された、短距離弾道ミサイル(SRBM)(※)と同型のもの**であったと推定。
- 現時点において被害報告等の情報は確認されていない。
- 一連の北朝鮮の行動は、我が国、地域及び国際社会の平和と安全を脅かすもの。また、このような弾道ミサイル発射は、関連する**安保理決議に違反し、国民の安全に関わる重大な問題**。我が国としては、**北朝鮮に対して厳重に抗議し、強く非難**。
- 引き続き、米国や韓国等とも緊密に連携し、情報の収集・分析及び警戒監視に全力をあげてまいる。



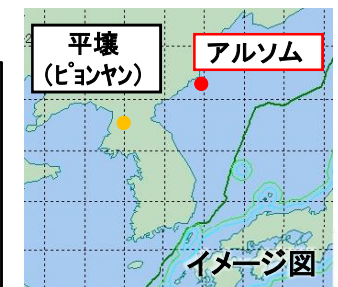
(※) 短距離弾道ミサイルC(北朝鮮は「超大型放射砲」「600ミリ放射砲」と呼称)

韓国合同参謀本部お知らせ(2024.9.12)(抜粋、仮訳)

- 韓国軍は今日(9月12日木)07:10頃、平壤(ピョンヤン)一帯で東海(トンヘ、ママ、日本海)上に発射された**短距離弾道ミサイル数発**を捉えた。
- 北朝鮮のミサイルは**約360キロ**飛行した後、東海(トンヘ、ママ、日本海)上に弾着した。
- 韓国軍は北朝鮮のミサイル発射時に直ちに捕捉して追跡監視し、日米側と関連情報を緊密に共有し、細部諸元は総合的に分析中である。

【参考】関連報道(2024.9.12 ニュース1、聯合ニュース)

- 移動式発射台(TEL)から発射されたこれらのミサイルは、咸鏡北道(ハムギョンプクト)沖の無人島「アルソム」に向かってそれぞれ約360キロを飛行したため、**アルソムに弾着した可能性**がある。【ニュース1】
- この日、北朝鮮が発射したミサイルは**3-4発程度**だという。【聯合ニュース】
- 韓国軍は、飛行距離や高度と数発同時多発的な発射などを考慮し、北朝鮮が**超大型放射砲(KN25)**を発射した可能性があると見ているという。【聯合ニュース】



北朝鮮による9月13日の発表

朝鮮中央通信(2024.9.13)(全文)

- 敬愛する金正恩同志が新型の600ミリ放射砲(多連装ロケット砲)車性能検証のための試験射撃を視察した。
- 朝鮮労働党総書記・朝鮮民主主義人民共和国国務委員長である敬愛する金正恩同志が新型の600ミリ放射砲車性能検証のための試験射撃を視察した(日時の報道なし)。
- 第2経済委員会傘下国防工業企業所が軍隊の作戦運用上の要求に即して性能を向上させた新型の600ミリ放射砲車を開発、生産した。
- 砲車の走行系統をさらに発展させて火力サービスの全工程を完全自動化した砲車の戦術的効果性を検証するに目的を置いて試験を行った。
- この日行われた走行試験と連発射撃試験を通じて砲車の優秀な戦術的性能が明確に立証され、軍人らの好評を博した。
- 金正恩同志は、新たに開発した砲車が既存(のもの)に比べると機動性や効用性の側面で優れていることについて評価した。
- 発射された放射砲弾(複数)は東海(日本海)上の島の目標を命中打撃した。
- 金正植朝鮮労働党中央委第1副部長と張昌河朝鮮民主主義人民共和国ミサイル総局長の両同志が当該試験に参加した。



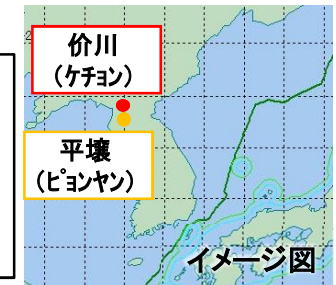
9月18日の北朝鮮による弾道ミサイル発射について

発射概要

- 9月18日**6時53分頃及び7時23分頃**に発射された北朝鮮による**複数発の弾道ミサイル**については、現在、日米韓で緊密に連携し、その詳細を分析中であるが、発射された弾道ミサイルは、**北朝鮮内陸部東岸付近に落下したと推定**。**我が国の領域や排他的経済水域（EEZ）への飛来は確認されていない**。
- これまでに得られている情報を総合的に勘案すると、**短距離弾道ミサイル（SRBM）であったと推定**。これ以上の発射の詳細については、引き続き日米韓3か国で緊密に連携して分析中。
- 現時点において、付近を航行する航空機や船舶の被害報告等の情報は確認されていない。
- 一連の北朝鮮の行動は、我が国、地域及び国際社会の平和と安全を脅かすもの。また、このような弾道ミサイル発射は、関連する**安保理決議に違反し、国民の安全に関わる重大な問題**。我が国としては、**北朝鮮に対して厳重に抗議し、強く非難**。
- 引き続き、米国や韓国等とも緊密に連携し、情報の収集・分析及び警戒監視に全力をあげてまいる。

韓国合同参謀本部お知らせ(2024.9.18)(抜粋、仮訳)

- 韓国軍は今日(9月18日水)06:50頃、**平安南道价川(ピョンアンナムドケチョン)一帯**から東北方向に発射された**短距離弾道ミサイル数発**を捕捉した。
- 北朝鮮のミサイルは**約400kmを飛行**し、正確な諸元については米韓が精密分析中である。
- 韓国軍は北朝鮮のミサイル発射時に直ちに捕捉して追跡監視し、日米側と関連情報を緊密に共有し、細部諸元は総合的に分析中である。



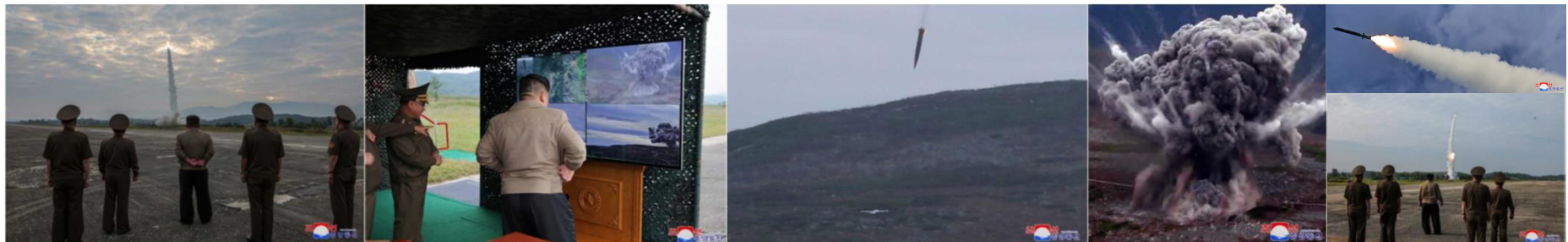
【参考】関連報道

- 北朝鮮が発射したミサイルは**7月1日に黄海南道長湍(ファンヘナムドチャンヨン)で発射したSRBM・KN-23系列の改良型と類似した機種と推定される**。**弾頭を大きくして4.5トンの高重量に改良**したミサイルだ。【2024.9.18、2024.9.19 聯合ニュース】
- これまで発射がまともに行われなかったミサイルが内陸に落ちたことはあったが、**北朝鮮が意図的に内陸に向けて発射したと明らかにしたのは今回が初めて**。該当ミサイルの正確度に対する信頼が高いという点を誇示しようとする意図と解釈される。【2024.9.19 聯合ニュース】
- 9月19日、韓国軍当局によると、北朝鮮は18日午前、弾道ミサイルと**巡航ミサイルを発射**した。巡航ミサイルは、**西海(黄海)上で8字型に飛行**した。【2024.9.19 聯合ニュース】

北朝鮮による9月19日の発表

朝鮮中央通信(2024.9.19)(全文)

- 朝鮮民主主義人民共和国ミサイル総局は9月18日、新型戦術弾道ミサイル「火星砲11タ4.5」の試験発射(発射実験)と改良型戦略巡航ミサイルの試験発射を成功裏に行った。
- 新型戦術弾道ミサイルには、設計上4.5トン級の超大型常用(通常)弾頭が装着された。
- 試験発射は、超大型弾頭を装着したミサイルで中等射程(中射程)320キロメートルの目標命中正確度と超大型弾頭の爆発威力を実証するところに目的を置いて行われた。
- また、戦闘適用用途に即して性能を高度化した戦略巡航ミサイルの試験発射も行われた。
- 朝鮮労働党総書記・朝鮮民主主義人民共和国國務委員長である敬愛する金正恩同志が両武器試験発射を指導した。
- 金正恩同志は試験の結果に大きな満足の意を表した。
- 金正恩同志は、このような試験とそれを通じた武装装備の性能の不断の向上は、朝鮮民主主義人民共和国の国家安全環境に及ぼす外部勢力の重大な脅威と直接的な関連がある、と述べた。
- 今日の国家安全環境を脅かす地域の軍事・政治情勢は、自衛的軍事力を強化する事業が依然としてわが国家の第一の重大事となるべきであるということを示唆している、と述べた。
- 金正恩同志は、今日再度実証されたわが軍事力の強勢は、共和国武力の発展速度を予測するのに十分なものだ、とし、われわれは核武力を引き続き増強するとともに、常用武器部門でも世界最強の軍事技術力と圧倒的な攻撃力を保有していなければならない、と強調した。
- 金正恩同志は、強力な力を保有していてこそ敵の戦略的誤断と武力使用の意志を抑止し粉碎することができる、とし、それがすなわち平和と安定を守護する真の抑止力だ、と述べた。
- 金正恩同志は、国防科学院が研究、開発した7.62ミリ狙撃手歩兵銃や5.56ミリ自動小銃をはじめとする各種の狙撃武器を見て、今後の生産方向と工場の生産技術土台を強化する上で提起される重要諸課題を提示した。
- 朴正天党中央軍事委副委員長・中央委書記、趙春竜党中央委書記、金正植党中央委第1副部長、張昌河朝鮮民主主義人民共和国ミサイル総局長、李創浩軍総参謀部副総参謀長兼偵察総局長、金永福軍総参謀部副総参謀長、金剛日朝鮮民主主義人民共和国国防次官、金容煥国防科学院院長の各同志が同行した。



石川県能登半島における大雨に係る災害派遣について

※ 数値等は全て速報値のため、
今後変更される可能性があります。

概 要	○ 9月21日（土）1050、気象庁は石川県に大雨特別警報を発表。 ○ 同日1118、石川県知事から陸上自衛隊第14普通科連隊長（金沢・石川県）に対し、輪島市等における豪雨のための人命捜索救助活動に係る災害派遣要請があり、同時刻受理。 ○ 引き続き自治体等と連携して支援活動を実施しており、昨日(5日)から珠洲市において入浴支援活動を開始。 ○ 10月6日（日）、陸上自衛隊及び航空自衛隊が約1,100名態勢で人命救助、道路啓開、入浴支援等を実施。
活動実績 (5日まで)	○ 人命救助：148名 ○ 情報収集：輪島市、珠洲市及び能登町（航空機及び地上部隊） ○ 道路啓開：約6,500m（国道249号、県道52号等） ○ 物資輸送：約20t（糧食、飲料水、携帯トイレ、衛生用品（オムツ等）等） ○ 給水支援：約490t ○ 入浴支援：25人
昨日（5日）の主な活動状況	
	珠洲市における昨日の活動
	【道路啓開】 ○ 陸自施設支援部隊(※)：若山 ※ 陸自第372施設中隊（鯖江）、381施設中隊（大久保）、第382施設中隊（富山）、第402施設中隊（岐阜）等の一部から成る。 【入浴支援】 ○ 陸自第10後方支援連隊（春日井）：大谷
	輪島市における昨日の活動
	【物資輸送】 ○ 陸自第10飛行隊（明野）：西保
能登町における昨日の活動	
【人命救助（捜索）】 ○ 陸自第14普通科連隊（金沢）、陸自第10施設大隊（春日井）、陸自施設支援部隊：久田～町野川河口	

※ 人命救助は、孤立地域からの搬送希望者の輸送及び患者後送等を含む。

活動写真



レバノン情勢を踏まえた自衛隊の対応について

- 9月27日、現下のレバノン情勢に鑑み、外務大臣からの依頼を受け、防衛大臣が空自輸送機（C-2）をヨルダン及びギリシャまで移動させ、待機することを命令。
 - 本命令を受け、10月3日、C-2×2機が空自美保基地を出発し、4日早朝、ヨルダンに到着。
 - 10月3日、外務大臣からの依頼を受け、防衛大臣が在レバノン邦人等の輸送を実施することを命令。
 - **10月4日、ヨルダンで待機していたC-2×1機がレバノンへ移動し、16名の邦人等（注）を乗せた後、ヨルダンに到着。**
- （注）邦人11名及びその外国籍の御家族1名、並びにフランス人4名の計16名
- 今後、邦人等を輸送する必要が更に生じた際にも迅速に対応できるよう、当面、C-2×2機は、現地で待機態勢を維持。
- ⇒ 防衛省・自衛隊としては、関係省庁とも緊密に連携しながら、引き続き、在留邦人等の安全の確保に全力を尽くす。



第3回日印外務・防衛担当閣僚会合（1/2）

現地時間 8月20日18時10分（日本時間同日21時30分）から約2時間、インド・デリーを訪問中の上川陽子外務大臣及び木原稔防衛大臣は、スブラマニヤム・ジャイシャンカル・インド外務大臣及びラージナート・シン・インド国防大臣との間で、第3回日印外務・防衛閣僚会合（「2+2」）を実施したところ、概要は以下のとおり。

総論

四大臣は、「日印特別戦略的グローバル・パートナーシップ」の立ち上げから10年目の節目となる年に、第3回日印外務・防衛閣僚会合（「2+2」）が開催されたことを歓迎。四大臣は、年次相互訪問としてのモディ首相訪日も念頭に、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」実現に向けた協力、二国間の安全保障・防衛協力、地域・国際情勢について議論し、引き続き緊密に連携していくことで一致。



「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現に向けた協力の深化

- ◆ 価値観を共有する民主主義国家として、FOIPの実現に向けた協力の更なる推進とともに、国連憲章の原則、主権と領土一体性の尊重、武力による威嚇又は武力の行使に訴えることのない紛争の平和的な解決に立脚したルールに基づく国際秩序の維持・強化へのコミットメントを確認し、全ての国がいかなる一方的な現状変更の試みをも控える必要性を強調。この観点から、日米豪印の枠組みを含め、協力を進めていくことで一致。
- ◆ ASEANとの協力の重要性について議論し、日印両国として引き続きASEAN一体性・中心性を支持していくことや、「インド太平洋に関するASEANアウトルック（A0IP）」との具体的協力の重要性を確認。

第3回日印外務・防衛担当閣僚会合（2/2）

安全保障・防衛協力

- ◆ 国際情勢が厳しさを増す中、価値や原則を共有する日印両国の安全保障・防衛協力の重要性を踏まえ、2008年（平成20年）の日印「安全保障協力に関する共同宣言」を改定することで一致。
- ◆ 二国間・多国間の重層的な共同訓練の実施の重要性で一致
- ◆ 経済安全保障分野での協力を強化するとともに、サイバー、宇宙といった分野でも連携していくことで一致。
- ◆ 二国間の防衛装備・技術協力の重要性を再確認し、艦艇搭載用複合通信空中線「ユニコーン」の移転実現に向けた調整の進展を評価するとともに、防衛装備・技術分野の将来的な協力を推進していくことで一致。
- ◆ その他の二国間協力として、インドにおける艦艇整備分野での協力について、海自及びインド海軍の間で検討が進められていることも歓迎。
- ◆ WPSについても両国の協力を具体化できるよう連携していくことで一致。



地域・国際情勢

- ◆ 東シナ海・南シナ海、北朝鮮、南アジア、ウクライナ情勢、中東情勢等についても意見交換を実施。

日印防衛相会談

会談概要

- ◆ 日時：8月20日（火）17:00～18:00
- ◆ 場所：ハイデラバードハウス（インド・デリー）
- ◆ 参加者：（日本側）木原稔防衛大臣 （印側）シン印国防大臣



会談の成果

約2年ぶりの日印防衛相会談を実施し、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて、引き続き緊密に連携していくことで一致。その他以下について協議。

【共同訓練】

- ◆ 全ての軍種における共同訓練が実現していることを評価するとともに、二国間共同訓練を複雑化、高度化させ、今後も継続的に実施していくことで一致。

【装備・技術協力】

- ◆ 艦艇搭載用複合通信空中線（ユニコーン）移転の実現に向けた防衛当局間及び企業間における協議が進展していることを評価。当移転をきっかけに日印間の防衛装備・技術協力を深化させていくことで一致。

【二国間・多国間協力】

- ◆ インドにおける艦艇整備分野での協力につき、海自とインド海軍との間の相互運用性の向上等に資するとともに、インド洋方面における海自艦艇の運用の柔軟性向上につながり得るものであり、海自及びインド海軍の間で検討が進められていることを歓迎。
- ◆ インド太平洋地域の安定のためには各国による協力が必要であると一致し、日印2国間のみならず、日印米豪4か国での協力等、多国間での防衛協力・交流が重要であることを確認。

日豪防衛相会談

会談概要

- 日時：9月4日（水）17：40（現地時間）から約1時間
- 場所：ウェリビー（オーストラリア・メルボルン近郊）
- 会談参加者：
（日本側）木原稔防衛大臣 他、
（豪側）リチャード・マールズ豪州副首相兼国防大臣 他



会談の成果

- 木原大臣は、我が国周辺での中国の軍事活動の活発化、特に最近の我が国領空の侵犯について強い懸念を表明。両大臣は、力又は威圧による一方的な現状変更の試みに対して一層連携を強化していくことで一致
- 木原大臣から、軌を一にする日豪の戦略の下、共通の能力を整備し、相互運用性を高める取組の重要性に言及。日本のスタンド・オフ防衛能力を活用した反撃能力と豪州の長距離打撃力の協力を推進することで一致
- 「安全保障協力に関する日豪共同宣言」に基づき、強化された運用面の協力の範囲、目的及び形態（S O F）に関する議論の進展を歓迎。自衛隊と豪軍の間で、情報収集・警戒監視・偵察（I S R）を含む運用協力や共同訓練が進展していることを確認
- 米国を含めた日豪米防衛協力を推進することの重要性を改めて確認するとともに、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、地域の同志国との連携を一層強化することで一致

日豪外務・防衛閣僚協議（1/2）

- 「自由で開かれたインド太平洋」の実現に共に取り組む豪州は、**いまや日本の安全保障に不可欠な存在**であり、**今後も安全保障協力をたゆみなく強化し、新しい次元に引き上げていくことが必要**
- 日豪は**価値観と戦略目標を完全に共有**
- 日豪協力の次なる段階として、**平素から緊急事態に至るあらゆる状況での自衛隊と豪軍が実効的に連携する態勢を構築し、米国と共に実践的な抑止力・対処力を強化**

■ 会議概要

- ✓ 日時：9月5日（木） 11：20（現地時間）から約2時間
- ✓ 場所：豪州・メルボルン
- ✓ 参加者：
 - （日本側）木原稔防衛大臣及び上川陽子外務大臣
 - （豪 側）リチャード・マールズ・オーストラリア連邦副首相兼国防大臣及びペニー・ウォン・オーストラリア連邦外務大臣

■ インド太平洋地域の安全保障環境

- ✓ 東シナ海及び南シナ海：**力又は威圧により現状変更を試みるいかなる一方的な行動にも強く反対**することを再確認。また、最近の**中国軍アセットによる日本の領域における活動**について、**深刻な懸念**をもって議論。南シナ海については、**中国による危険で威圧的な行動の強化を含む、最近の情勢に深刻な懸念を表明**
- ✓ 北朝鮮：核・ミサイル活動、露朝軍事協力、拉致問題を含む北朝鮮への対応について連携
- ✓ 東南アジア及び太平洋島嶼国：**戦略環境の変化や各国の優先事項を踏まえ、日豪で連携**

■ 安全保障協力

- ✓ 日豪双方は、「**安全保障協力に関する日豪共同宣言**」（2022年）に沿って、**あらゆる国家手段を取り込みつつ、日豪の戦略的協力・安全保障協力をたゆみなく深化させていくことで一致**
- ✓ **米国との協働**を含め、**共同で抑止力を強化し、相互運用性を高め、両国の安全保障政策をより緊密に連携させていくことで一致**

日豪外務・防衛閣僚協議（2/2）

■ 運用協力・共同訓練、先進能力・技術協力

- ✓ 運用面の協力の範囲・目的及び形態（S O F）の重要性を再確認し、更に洗練
- ✓ 日豪円滑化協定（R A A）を活用した、二国間の運用能力・相互運用性強化
- ✓ 日本の統合戦司令部（J J O C）の今後の設立を踏まえ、両国の統合司令部間における連絡官の相互派遣を歓迎
- ✓ 日本のスタンド・オフ防衛能力を活用した反撃能力と豪州の長距離打撃力との協力深化で一致
- ✓ 情報戦に関する能力向上及び技術分野における協力で一致
- ✓ A U K U S 第2の柱における先進能力プロジェクトに関する協力の機会について、A U K U S 諸国（豪英米）と日本で引き続き協議

■ 日米豪協力、インド太平洋の安全保障協力

- ✓ 豪州国防当局の人員の日米共同情報分析組織（B I A C）への参加を歓迎し、情報収集・警戒監視・偵察（I S R）協力における日米豪連携を拡大
- ✓ 日米豪で、F - 3 5 の相互展開を含めた航空協力の連携やネットワーク化された防空ミサイル防衛アーキテクチャに関する協力を進めること、また、豪米の戦力態勢協力活動への日本の参加を拡大させることを再確認
- ✓ 日米豪印の協力強化や、フィリピン、太平洋島嶼国、韓国などとの連携強化を確認



同盟国・同志国との連携（ドイツ、スペイン、フランスとの共同訓練（1/2）

- 独・西・仏の空軍機が、令和6年6月～8月の間に合同でインド太平洋地域に展開し、複数の共同演習に参加。
- その一環として日本に来訪する機会を捉えて、航空自衛隊及び米軍との共同訓練を計画
- 航空自衛隊の戦術技量の向上、各国との相互理解の促進及び防衛協力・交流の更なる深化を図るとともに、各国及び米軍との連携強化を図る。

①【仏空軍の訪日及び日仏共同訓練の概要】

○時期：令和6年7月19日（金）・20日（土）

○場所：百里基地及び同周辺空域

○部隊：空 自 F-2（2機）

仏空軍 ラファール（4機）、A330空中給油機、A400M輸送機、

人員約260名

○訓練項目：各種戦術訓練



同盟国・同志国との連携（ドイツ、スペイン、フランスとの共同訓練（2/2）

②【独・西空軍の訪日及び日独西共同訓練の概要】

○時期：令和6年7月19日（金）・20日（土）（前後に展開・撤収期間あり）

○場所：千歳基地及び同周辺空域

○部隊：空自 F-15（4機）

独空軍 ユーロファイター（8機）、A330空中給油機、A400M輸送機、
A321輸送機、人員約180名

西空軍 ユーロファイター（4機）、A400M輸送機、人員約150名

○訓練項目：各種戦術訓練



③【日独共同訓練（ニッポン・スカイズ24）の概要】

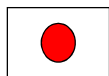
○時期：令和6年7月22日（月）～25日（木）
（前後に展開・撤収期間あり）

○場所：千歳基地及び同周辺空域

○部隊：空自 F-15（4機）

独空軍 ユーロファイター（3機）、A400M、A321輸送機、
人員約80名

○訓練項目：各種戦術訓練



日豪伊独仏共同訓練（2024年8月）



- 護衛艦「いずも」、「おおなみ」等は、**関東南方から沖縄東方に至る海空域**において、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けた地域的・国際的な協力の強化を目的として、**日豪伊独仏 5 か国による共同訓練**を実施
- **日豪伊独仏共同訓練としては、今回が初めての**実施。
- 本訓練を通じて、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現に向けて協働する姿を示すとともに、**海上自衛隊の戦術技量の向上や豪・伊・独・仏海軍との連携の強化**を図る

